

茨城県歯科衛生士会
会長 岩村 昌子 様

第2回フッ化物洗口研修会【WEB開催】について

公益社団法人 茨城県歯科医師会
会 長 榊 正幸
(印章省略)

本会の事業推進については、日頃よりご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、第2回フッ化物洗口研修会を下記のとおり開催することといたしました。フッ化物洗口推進の第一人者である、神奈川歯科大学・同短期大学部特任教授の荒川浩久先生より、専門的な立場から、フッ化物洗口の基本的な知識から実際までをご説明いただきます。

フッ化物洗口の普及活動に大いに役立つ内容ですので、多数のご参加をお願い申し上げます。

記

1. 日 時 令和3年8月26日(木) 18時30分～20時
2. 開催方法 Webex による WEB開催
3. 内 容 演題「今、なぜフッ化物洗口なのか
～フッ化物洗口実施ワースト県を脱却するために」
講師：神奈川大学・同短期大学特任教授 荒川 浩久 先生
※講演要旨、講師略歴を添付します。
4. 対 象 者 歯科医師、歯科衛生士、行政関係者等
5. 定 員 なし
6. 受 講 料 無料
7. 申込方法 下記URLまたはQRコードからの『申込フォーム』で、8月16日までに
お申込ください。また、茨歯会H・Pにこちらの案内を掲載しますので、そ
こから読み取ることができます。後日、登録いただいたアドレスに受講の案
内メールを送信します。

URL <https://forms.gle/JN8AzAzaNjyWMSbt9>



茨歯会 HP → 8020・6424情報センター →
はじめてみませんかフッ化物洗口→フッ化物洗口研修会【WEB開催】について

『なぜ今、フッ化物洗口なのか？』

～フッ化物洗口実施フースト県を脱却するために～』

講師：神奈川歯科大学・同短期大学部特任教授 荒川 浩久（あらかわひろひさ）

日時：2021年8月26日(木) 18:30～20:00

場所：WEB開催

健康な歯をできるだけ長く保ち、活発な咀嚼を維持することが全身の健康保持（ことに生活習慣病を予防して健康寿命を延伸する）に大きく影響することがわかり、う蝕予防のエビデンスレベルが最も高いフッ化物応用が「健康日本21」や「歯科口腔保健の推進に関する法律」に取り上げられています。歯の喪失を防ぐには、う蝕と歯周病の予防が大切ですが、う蝕は生えて間もない歯ほど罹患しやすく、一度罹患すると元の健全な状態に戻ることもない病気です。しかも、う蝕にかかった歯は、一生涯その影響に悩まされますので、歯の大切さなどを十分理解できない子どもさんには大人が予防の支援をし、根面う蝕が問題となる高齢者まで、一生涯う蝕予防に取り組む必要があります。

フッ化物応用は、う蝕の予防とコントロールを目的に、高い安全性と有効性のもとに75年以上も実施され続けています。世界のフッ化物応用は、全身応用（水道水フッ化物添加など）とフッ化物配合歯磨剤の組合せが基本です。わが国では世界の先進国の中でフッ化物応用の普及に乗り遅れ、現在でもフッ化物の全身応用は実施されていません。したがって、局所的応用としてのフッ化物配合歯磨剤（市場シェア92%）、フッ化物塗布剤（1～14歳の62.3%が経験：2016年歯科疾患実態調査）、フッ化物洗口（2019年3月時点で4～14歳の集団フッ化物洗口実施人数は152万6千人、実施率は12.8%）、を組み合わせることになります。フッ化物配合歯磨剤は医薬部外品として消費者は自由に利用できます。フッ化物塗布剤は医療用の医薬品で歯科医師か歯科衛生士自らが応用します。その点、最も普及の遅れているフッ化物洗口剤は、第3類医薬品と医療用医薬品（劇薬である顆粒製剤と劇薬でない洗口液）と様々ですが、その優れた公衆衛生特性から、水道水フッ化物添加の次善の策として集団での応用が推奨されています。

本日のお話しの内容は、主に学校などでの集団フッ化物洗口です。現在のコロナ禍において、ワクチン接種に関するフェイクニュースが飛び交っています。フッ化物応用を開始した1945年にも同じような現象がみられ現在まで続いています。その答は「長い応用の歴史が安全で有効であることを証明しています」となります。国民の健康寿命を延伸させるために、う蝕予防のために歯科界では何を優先すべきかをもう一度考えていただきたいと思います。

荒川 浩久（あらかわ ひろひさ）先生

略歴

- 1977年 神奈川歯科大学卒業
- 2000年 神奈川歯科大学口腔衛生学教授、大学院指導教授
- 2001年 日本口腔衛生学会常任理事（2013年5月まで）
- 2001年 日本歯磨工業会広告審査会委員長
- 2009年 厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」主任研究者（3年間）
- 2009年 ISO/TC106WG4(2012年より同WG3、2017年より同WG10 追加)
日本エキスパート（2021年3月まで）
- 2018年 神奈川歯科大学・神奈川歯科大学短期大学部特任教授

主な著書

- ・フッ化物応用のファクトチェックで、脱・コロナむし歯 DHstyle 6月号 2021年
- ・歯科衛生士養成機関の教員にとっての研究、倫理と利益相反 日本歯科衛生教育学会雑誌 12巻1号 2021年
- ・フッ化物の効果的な使い方を説明しましょう 歯科衛生士 144 2020年
- ・フッ化物の科学的根拠に基づく水道水フッ化物濃度 第1版 口腔保健協会 2020年
- ・フッ化物洗口50年のあゆみ—新潟県弥彦小学校の開始から50年、日本のフッ化物応用を振り返って— 第1版 NPO法人日本フッ化物むし歯予防協会、富山 2020年
- ・座談会 フッ化物洗口50年 学校などの施設で行うフッ化物洗口を振り返り、今後を語る 歯界展望 136巻No3 2020年
- ・フッ化物応用の科学 第2版 （財）口腔保健協会 2018年